

付属資料・目次

特記仕様書（抜粋）

特 1

案内図、構内配置図(1)、掘削断面図、埋め戻し断面図

1

校内配置図(2)、既存配管等掘削状況断面図

2

京都大学（南部）多目的施設用地埋蔵文化財調査

I 工事概要

1. 工事場所 京都市左京区吉田橘町（京都大学医学部構内）
2. 完成期限 令和7年3月31日（月曜日）

3. 建物概要

建 物 名 称	_____	
工 種	埋蔵文化財調査	
構 造	_____	
階 数	_____	
建築基準法による	建築面積 (㎡)	_____
	延べ面積 (㎡)	_____
消防法施行令別表第一の区分	_____	
改 修 面 積 (㎡)	_____	
備 考	_____	

4. 工事種目

① 印の付いたものが対象工事種目

工 事 種 目	建物別及び屋外		工	事	種	別
・ 2 仮設工事						
○ 3 土工事			一式			
・ 4 地業工事						
・ 5 鉄筋工事						
・ 6 コンクリート工事						
・ 7 鉄骨工事						
・ 8 コンクリートブロック・ALCパネル ・ 押出成形セメント板工事						
・ 9 防水工事						
・ 10 石工事						
・ 11 タイル工事						
・ 12 木工事						
・ 13 屋根及びとい工事						
・ 14 金属工事						
・ 15 左官工事						
・ 16 建具工事						
・ 17 カーテンウォール工事						
・ 18 塗装工事						
・ 19 内装工事						
・ 20 エントランス及びその他の工事						
・ 21 排水工事						
・ 22 舗装工事						
・ 23 植栽及び屋上緑化工事						
・ プール工事						
・ 電気設備工事						
・ 機械設備工事						
○ 埋蔵文化財調査			一式			

5. 指定部分 ☒ 無 ☐ 有 対象部分 ()
指定部分工期 令和 年 月 日 (曜日)
6. 概成工期 ☒ 無 ☐ 有 令和 年 月 日 (曜日) (1.2.1)

II 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 文部科学省発注工事標準仕様書等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約標準仕様書、現場説明書、図面 2 枚及び本特記仕様書 1 枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印の付いたものを適用する。

- 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下「標準仕様書」という。）
- 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
- 文部科学省建築工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科仕様書」という。）
- 文部科学省建築改修工事標準仕様書（特記基準）（令和4年版）（以下「文科改修仕様書」という。）
- 工事写真撮影要領（令和元年7月）
- 建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）
- 建築工事標準詳細図（令和4年版）
- 文部科学省土木工事標準仕様書（令和4年版）

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
 なお、電気設備工事の特記仕様書は()、機械設備工事の特記仕様書は()による。

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記

- ① 項目は、○ 印の付いたものを適用する。
② 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。
○ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。
○ 印と※ 印の付いた場合は、共に適用する。
- 3) 特記事項に記載の〔 〕 内表示番号は、標準仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 〕 内表示番号は、改修標準仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 () 〕 内表示番号は、文科仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の〔 [] 〕 内表示番号は、改修文科仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- 4) ㊦ 印は、「国等による環境物品等の調達に推進する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（令和4年2月25日変更閣議決定）に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の品目）を満たすものを示す。

1

各章共通事項

項目

適用区分

電気保安技術者、
工事用電力設備の
保安責任者

施工条件

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

風圧力

風速（ $V_0 = 32 \text{ m/s}$ ）

地表面粗度区分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

積雪荷重

平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表（32）

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。（1.3.3～4）

項目名	電気保安 技術者
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	◎
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・
4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・
6 第1種電気工事士の資格を有する者	・
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	・
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

この工事現場では、次の施工条件による。（1.3.5）

●本工事建物周囲には、研究棟や住宅等が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分配慮すること。

●工事用地および工事用地周辺において適切な養生・清掃を行うこと。また、工事車両の搬出入時などに周辺道路等を汚損、破壊等した場合速やかに対応すること。

●騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。

●臭気の発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。

●学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。

その他、学内行事等による作業の中止については、監督職員と協議すること。

●工事車両の通行は交通整理員を配置する等、安全対策を講ずること。

●その他建物内や敷地周囲に影響があると思われる作業については、監督職員と協議を行い進めること。

●工事用地内の環境美化（草刈り等）に努めること。

●構内実施中、又は実施が決定した他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。

<

工事名 京都大学（南部）多目的施設用地埋蔵文化財調査		図面番号
図面名称 特記仕様書（抜粋）	縮尺	設計日 令和6年10月
		特1

現場說明付記事項

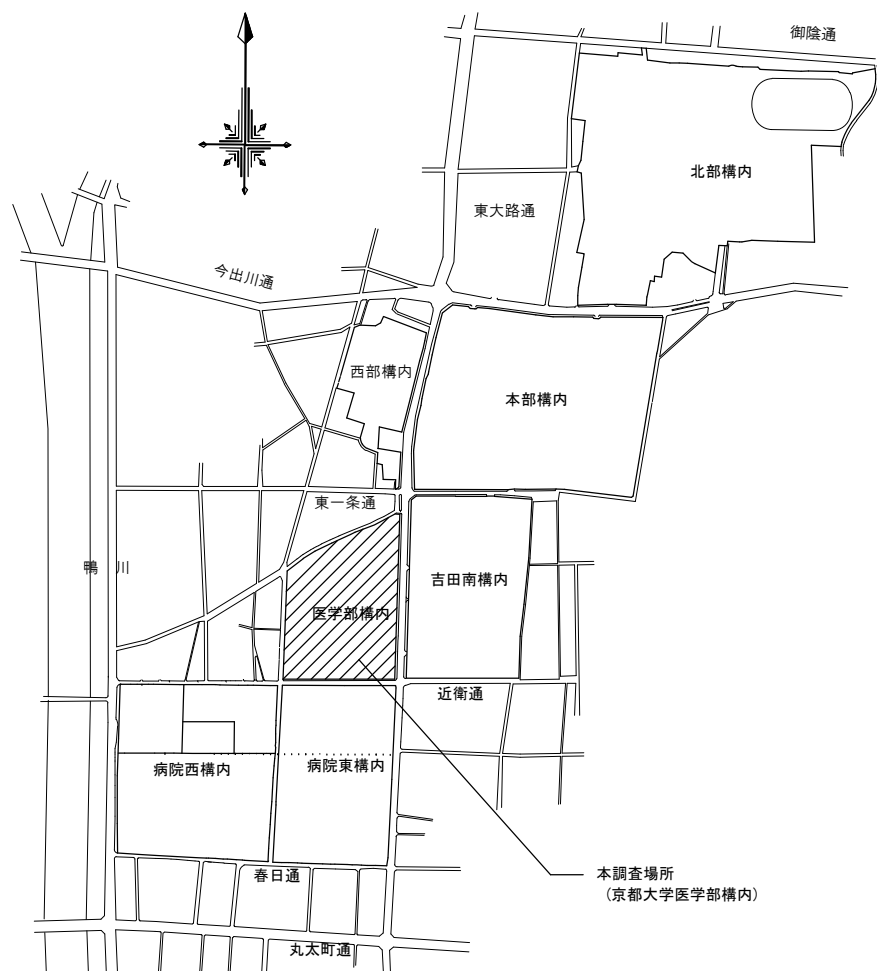
1 工事施工上の注意事項

- ① 車両通行経路は、道路の通しと監督職員と協議の上、誘導員を配置し、交通整理を行うこと。
- ② 工事車両は周辺道路での違法駐車は行わないこと。また路上に縦列待機させることも行わないこと。
- ③ 工事用地は公示の範囲とし、危険防止のため関係者以外の出入りができないようにすること。また、工事関係車両（通勤車両を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車は行わないこと。
- ④ 学校行事、近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。
- ⑤ その他、学内の試験等による作業の中止については、監督職員と協議すること。
- ⑥ 撤去作業その他大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めるとする。また、施工時の防音対策を十分に検討し行うこと。
- ⑦ 教職員、学生等の通行が頻繁な場合、構内車両通行には徐行の徹底等、十分注意するよう指導を行うこと。
- ⑧ 埋蔵文化財を発見した時は、ただちに工事中止し、監督職員の指示を受けること。
- ⑨ 工事現場における火災予防のため適切な量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取り扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
- ⑩ 支障となる地中埋設物を発見した時は、監督職員と協議の上撤去し、適正対応すること。
- ⑪ 工事用地は、除害作業に良好な環境を保持すると共に工事完了時には現状に復旧して返還すること。同一構内への工事の業者と連絡調整を行い、安全かつ円滑な工事の実施を行うこと。
- ⑫ 作業時間は、午前8時から午後6時まで原則とすること。
- ⑬ 構内における喫煙については、監督職員と協議の上、健康増進法（平成十四年法律第百三十号）第二十五条の五に基づく受動喫煙対策を講ずること。
- ⑭ 堅路舗たひから、安全設備設置等、安全対策を実施すること。
- ⑮ 仮囲いは、埋蔵文化財調査終了後も総合研究棟（環境・共生・共生イノベーション拠点棟）新営工事開始まで残置することとし、新築工事開始と調整・引越ごとの撤去を行うこと。

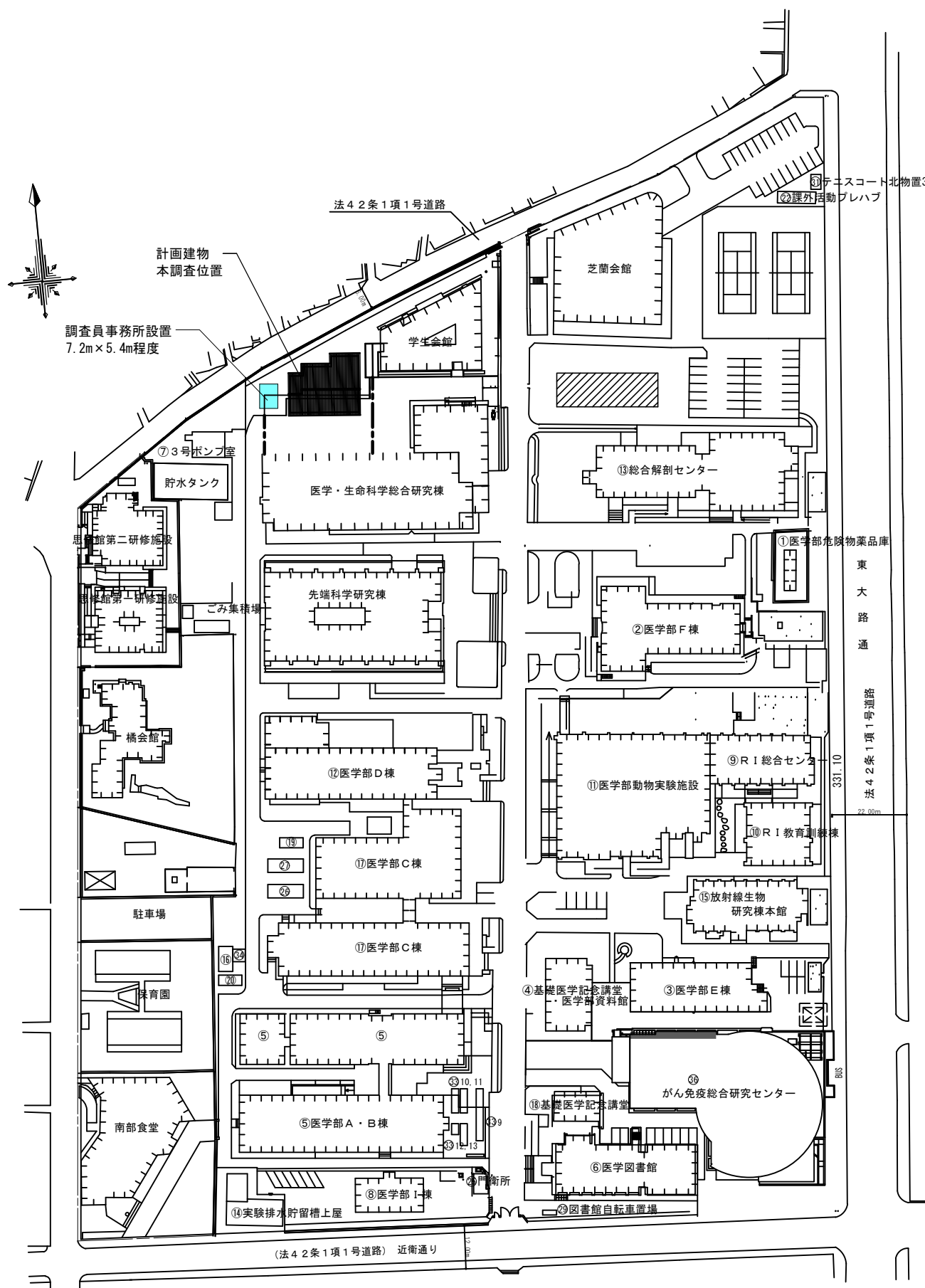
2 工事中の構内安全対策について

工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。






- 1) 警備員と協議の上、構内通路に工事看板、警戒標線板、交通規制標線板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つこと。
- 2) 掘削時等で危険な状態となる箇所には、安全細、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を設置し、安全な状態を確保すること。
- 3) 構内通路及び足踏防止のため工事用車は徐行すること。
- 4) 大型車両の構内通行に際し、地上埋設物、マニピュル等は必要に応じ養生を行うこと。
- 5) 大型車両により作業の都合は必要に応じて交差整理員を追加増員し、誘導・交通整理等により構内の安全確保に努めること。
- 6) 仮囲いの設置に伴い、構内通路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ一部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。
- 7) バナゲルなどには電子音つき回転灯を設置するなど事故防止に努めること。



付近見取図



凡 例

記 号	内 容
	本工事用地 1,500㎡
	埋め戻し要土 仮置きスペース 300㎡
	仮囲い（パネル鋼板 H=2m L=127m）
	工事用車両侵入経路
	交通整理員（土砂搬出時1名）

工事名 京都大学（南部）多目的施設用地埋蔵文化財調査

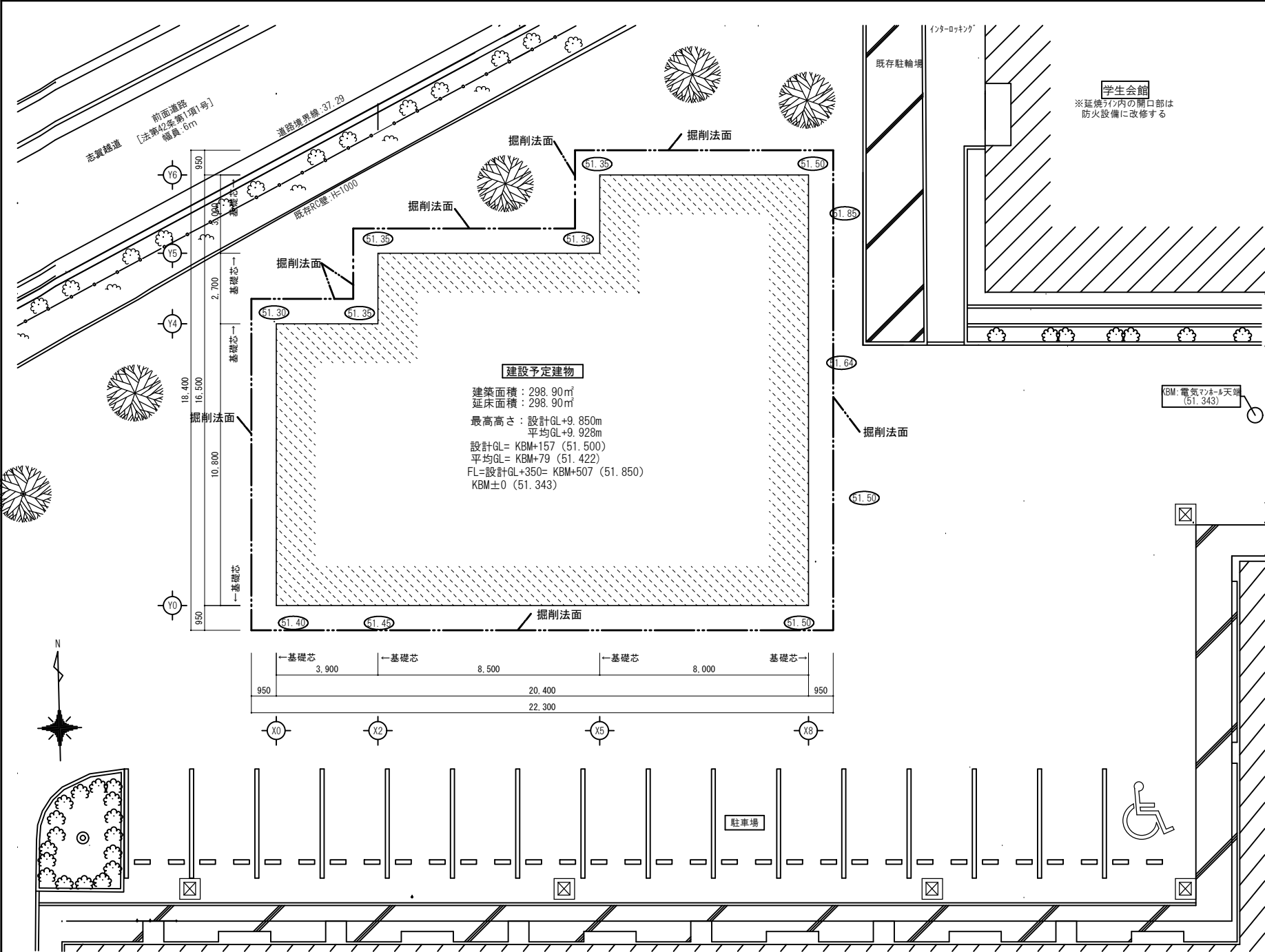
図面名称
案内図、構内配置図(1)、掘削断面図、埋め戻し断面図

縮尺
A1:1/400, 1/50
A3:1/800, 1/100

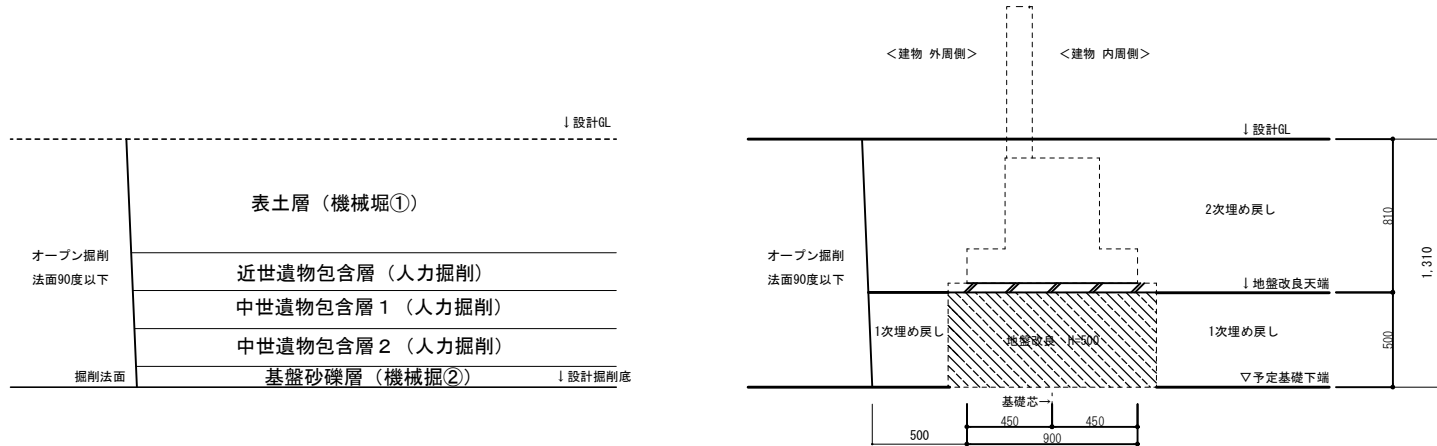
設計日
令和6年9月

图面番号	
------	--

1

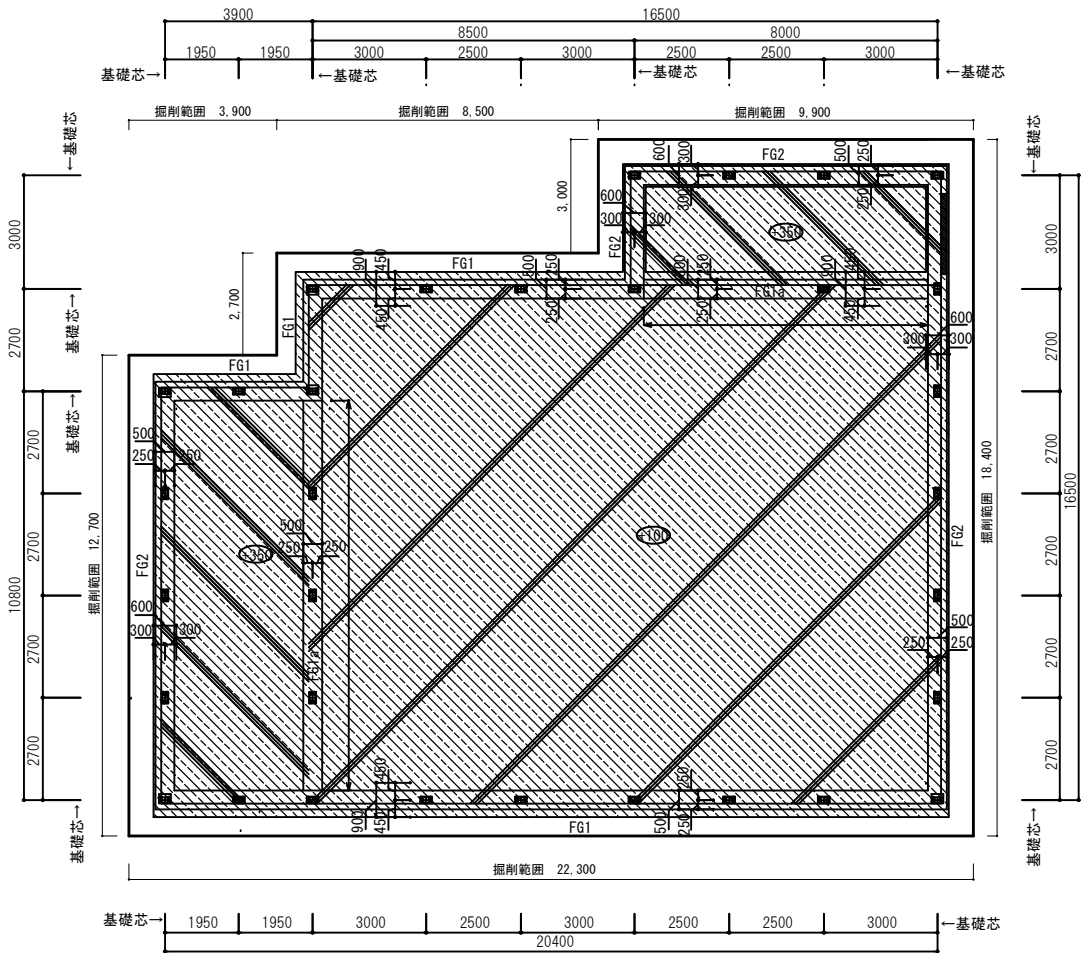


構内配置図 S=1/100



掘削断面図 S=1/50

埋め戻し断面図 S=1/50



基礎伏図 S=1:100 (A2)

